

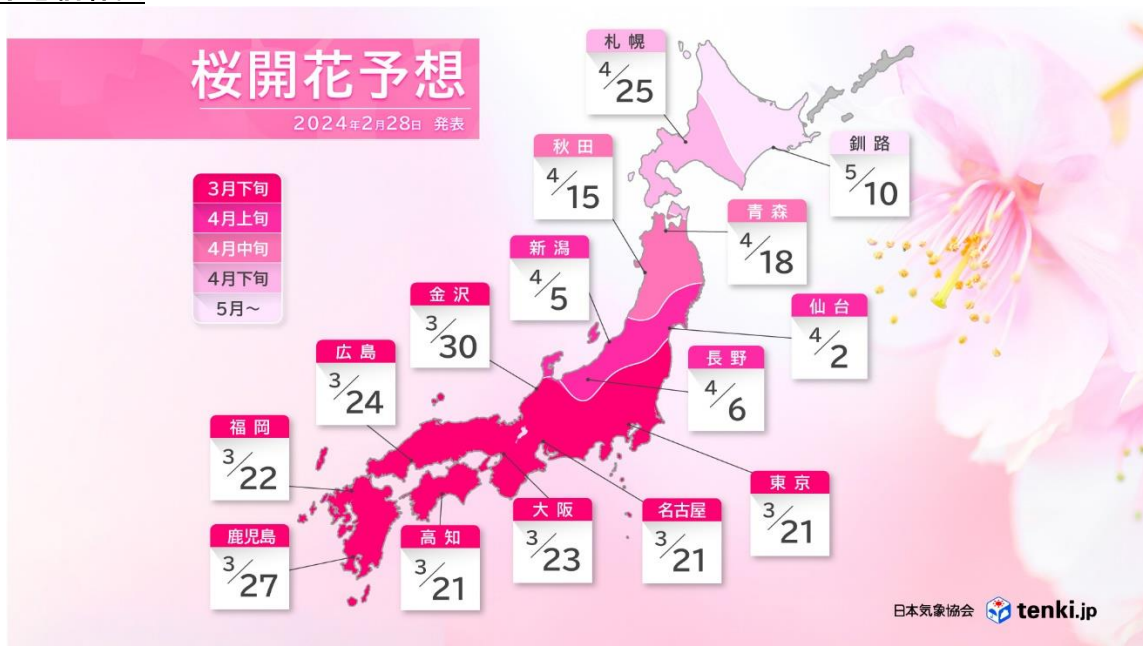
【報道関係各位】

2024年2月28日
一般財団法人 日本気象協会

2024年桜開花予想（第2回） 全国的に平年並みか早い 開花トップは東京などの4都市で3月21日

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、日本全国49地点の桜の開花予想（第2回）を、2024年2月28日（水）に発表します。

開花予想前線図



開花予想日(主な地点)

地点		開花予想日と傾向(平年比)		平年	昨年
北海道(道東)	釧路市	5/10	早い	5/16	5/1
北海道(道央)	札幌市	4/25	早い	5/1	4/15
青森県	青森市	4/18	早い	4/22	4/7
宮城県	仙台市	4/2	早い	4/8	3/26
秋田県	秋田市	4/15	平年並	4/17	4/4
東京都	千代田区	3/21	早い	3/24	3/14
長野県	長野市	4/6	早い	4/11	3/28
新潟県	新潟市	4/5	早い	4/8	3/27
石川県	金沢市	3/30	早い	4/3	3/23
愛知県	名古屋市	3/21	早い	3/24	3/17
大阪府	大阪市	3/23	早い	3/27	3/19
広島県	広島市	3/24	平年並	3/25	3/19
高知県	高知市	3/21	平年並	3/22	3/17
福岡県	福岡市	3/22	平年並	3/22	3/18
鹿児島県	鹿児島市	3/27	平年並	3/26	3/24

※釧路市はエゾヤマザクラの予想

2024年2月28日発表
日本気象協会 tenki.jp



開花の傾向

2024 年春の桜の開花は、全国的に平年並みか平年より早くなる見込みです。東・北日本ほど平年より早くなる所が多いでしょう。

今年の桜の開花は、3月21日に東京、名古屋、岐阜、高知からスタートする見込みです。翌22日には福岡や京都などで、23日には大阪や長崎などでも開花し、3月末までに、九州から北陸にかけての広い範囲で開花するでしょう。

4月に入ると、桜前線は東北地方を北上し、4月2日には仙台で、18日には青森で開花する見込みです。4月下旬には北海道へ到達し、札幌では25日に開花するでしょう。

この冬(12月～2月)の気温は、期間を通してみると全国的に平年より高くなっています。12月から1月の高温は、温暖な地域では休眠打破の遅れにつながったと考えられますが、2月の高温は、各地の桜の開花を早める方向に働いたとみられます。

この先、3月上旬は寒暖を繰り返すものの気温は平年より低めに推移する所が多いでしょう。ただ、3月中旬から下旬の気温は平年並みか平年より高く推移する見込みです。このため、桜の花芽は順調に生長し、開花は全国的に平年並みか平年より早くなるでしょう。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全49地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーぴー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1:桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1:以下の日程を予定しています。1月、2月中は開花予想日のみを発表し、3月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第1回 1月31日(水)	第2回 2月28日(水)	第3回 3月6日(水)	第4回 3月13日(水)
第5回 3月19日(火)	第6回 3月27日(水)	第7回 4月3日(水)	第8回 4月10日(水)
第9回 4月17日(水)	第10回 4月24日(水)		

Q2:開花日・満開日の基準は？

A2:気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5~6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3:予想する地点数は？

A3:1月、2月中は49地点、3月以降は全国で約80地点の予想を発表します。予想地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる約30地点となります。

Q4:日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4:花芽の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で18年目の取り組みです。

Q5:開花予想に使うデータは？

A5:以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。